

『職員育成指針 2021年版』の実践をご紹介します

2023年11月9日～10日、都内で開催する「職員育成指針 2021年版」実践交流集会～2023年6月9日付全民医発(45)第ア-535号参照～に向けて、この間、専門部会の中で報告された取り組みをシリーズでご紹介していきます。



『リフレクションを活用した新人看護師研修』

報告者:全日本民医連職員育成部員 寺内桃子 氏(京都民医連中央病院副看護部長)

京都民医連中央病院看護部で2021年度の新人看護師に対してリフレクションの実践を取り入れ、サポートしてきた取り組みが報告された。2020年度はコロナ禍で臨地実習の中止や縮小等により、看護学生が患者と接する機会が減り、学生自身が意図的なケアを考える機会が減少した事を主な背景としたもの。21年度は「患者の反応をしっかりと見て、考えながらケアを実施する」事を重視し、とにかく手技熟達に目が行きがちだった目標を「療養上の世話」に絞り込み、患者とコミュニケーションをとりながら環境整備や移乗などを先輩と一緒にやる事を夜勤自立前まで繰り返した(「診療の補助」はシャドウイングで良しとし、看護記録も不要とした)。新人看護師はパートナー・ナーシングシップ(PNS)と“補完の4重構造”でフォローし、教育体制は屋根瓦方式で、実地指導者が看護実践の指導とメンターを担っている。

リフレクションの実践として、援助担当者やパートナーに対しては「心理的安全性の確保・コーチングによる傾聴・新人の思いや考えをまずは受け止める・適切な発問を行う・話が本質から外れていないか観察する・次に生かすことを新人と一緒に考える」事が出来るようになること。新人看護師に対しては「自分が実施したケアの場面で、気になること、モヤモヤすることを表出する・その時の自分の気持ちや思いを表出する・起こった出来事や現象を概念化できる・次に生かせることを考えることができる・アサーティブなコミュニケーションを心がける」事が出来るようになることとし、パートナーと共に可視化するためにリフレクション・シートを活用した。シートに示された内容は、看護技術や知識の未熟さにより適切に看護提供できなかったこと、患者の痛みや不安などの反応に対する悩み、多重業務の対応への葛藤などが多かった。開始した当初は、新人看護師自身の悩みが中心であったが、徐々に患者の反応に着目できるようになっていた。

結果、94%の新人看護師がリフレクションが「役に立った(67%)・少し役に立った(27%)」と回答、実地指導者、部署の教育委員もリフレクションが教育方法として「良かったと思う(50%)・少し思う(46%)」と回答した。



※リフレクション:人は学習する上でただ経験するだけではなく、その経験全体を振り返り、自己の行動、思考を言語化し、その時の判断について再度考え(reflect)その意味付けをすることで、自己の学びとなる(ジョン・デューイ『経験と教育』"Experience and Education" 1938)。

リフレクションの実践

○ 1年間の流れ（案）

4月～ 勤務終了時にリフレクションを実施
8月～ 看護実践の振り返り（卒1課題レポート）

※少なくとも夜勤自立までは実施する（実施期間は今後決定）
※日々の仕事の中で、モヤモヤしたこと、困ったことがあった時はいつでもリフレクションシートを使用し振り返る
※業務内容だけでなく、看護ケアのリフレクションも行う

○ 方法

※全病棟共通のリフレクションシートを使用し実施する

①内容 (困った事・モヤモヤした事・ 感じなかった事など)	②あなたの思い・考え (押しつけない状況・理由)	③患者・家族・PNの 思い・考え	④次に活かすこと
⑤リフレクション後に考えたテーマ			



まとめとして、①入職時から4か月間実施してきたリフレクションは、自らの看護を振り返るとりくみ（課題レポート）に役立ち、レポートをまとめることにより自己の課題の明確化や成長に繋がったという結果であった。振り返りという形ではあるが、看護目標である、考えてケアをすることに繋がった。②リフレクションは自己の行動や思考の振り返りであり、「自分を知ること」「気づきと概念化」が重要である。自分を客観視するためには書くことが良いとされており、共有のシートを導入したこともよかった。ただし、「リフレクションの後に考えたテーマ」の記載が出来ていない新人が多く、概念化は課題として残った。③課題レポート以外にも、Off-JT 研修（多重課題や社会人基礎力）でリフレクションの機会が多くあり、臨地実習の経験が少ない新人看護師が看護実践を振り返る手段として一定効果があったと考える。④担当者が一緒にリフレクションを実施することで、新人看護師の理解にも繋がり相互にとって意義があった。ただし、気づきを引き出す支援では「少し出来た」という評価が一番多く、担当者のファシリテーションスキルの向上は継続課題。 <2022年12月部会での報告内容を、事務局がまとめました。>

掲示板

☆「旧優生保護法下における強制不妊手術問題に対する見解」&「にじのかけはし」の学習会の様子（ニュース・画像など）や特徴的な感想をお寄せください。

※関連資料は下記。

<https://www.min-iren.gr.jp/?p=45367>

<https://kirarikango.com/common/images/contents/T0P-lgbtq.pdf>

酷暑お見舞い申し上げます。

